

## 瑞穂区井戸田のマンション紛争

名古屋市瑞穂区の閑静な住宅街のマンション「紛争」に注目。当地の住民運動「仲間」から、中日新聞 2013 年 2 月 14 日朝刊の記事を紹介された。昨日レポートした井戸田である。はじめて歩いたときは気づかなかったが、写真のように再度歩くと付近の景観にそぐわない 5 階建てマンションがあった。車がすれ違うのも困難な狭い道。お寺の横の道には、大きく「通学路」という表示がされていた。記事を紹介しよう。

幅 3 米前後の生活道路が入り組み、2 階建てが多くを占める名古屋市瑞穂区の住宅密集地。鎌倉街道が残され、歴史を感じさせる街の中心部で、5 階建て 50 戸のマンションと、立体駐車場の建設が進んでいる。



「込み入った住宅地の中に、街を圧迫するようなマンションが建つのはおかしい」と、建設予定地の向かいに住む浅井比佐志さん(61)は憤る。浅井さん宅前



の道路は小中学生の通学路。完成すれば入居者の車で交通量は増えるが、敷地いっぱいに建物が設計されており、道幅は狭いまま。車のすれ違いもできず、歩行者の安全が守られるのか疑問という。



さらに付近の日照や圧迫感の問題に加え、工事に伴う重機の搬入について業者側から十分な説明がなかった。浅井さんは近くの住民と建設反対の会を組織し、業者に建物を低くし、道幅を広げるため、セットバック(道路境界から後退して建設)するよう要求。だが、業者側は「法律通りにやっている。営利目的で慈善事業ではない」として、5 階 50 戸の基本設計の変更を拒否。建物周囲の垣根をやめ、歩行者用として数十センチのセットバックに応じる程度だ。

施主の大手不動産会社は「共生・共存」の企業理念を掲げるが、実情は基本設計に地域の声が反映されることはなく、交渉の余地もわずか。入居募集の広告には「街の中でひととき視線を集める佇まいを目指しています」との文言があり、反感を買った。

本紙の取材に対し、同社は理念との整合性には触れず「話し合いを継続し、誠意をもって対応していく」と回答。住民の渡辺悟さん(48)は「私たちの理解が追いつかないまま、行政の手続きを含めて計画がプロの手でどんどん進められていく。これで特色ある地域の住環境が守られるのか」と嘆いた。

(2017 年 5 月 27 日)